

---

## 中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

---

2007年5月11日号

◎ 2007年3月大豆市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年3月における大豆市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 大豆の比較収益は低下、農民の栽培意欲は減退

最近の中国では輸入大豆が増加していることから、国内の大豆価格が軟調であることに加え、1ムー（15分の1ヘクタール）当たりの生産性が低く、生産コストも増加しているため、2004年以降、大豆の収益性は低下を続けている。また、2006年のトウモロコシ価格の大幅な高騰の影響を受け、主産地における大豆の比較収益は低下した。国家統計局黒龍江省調査チームの調査によると、2006年における黒龍江省の農民の1ムー当たり的大豆栽培による平均利潤は、前年比33%減の125.3元となった。これに対し、トウモロコシの1ムー当たりの平均利潤は、同12.6%増の218.7元であり、生産地における農民の大豆栽培意向は弱まっている。春節（旧正月）後は国内の大豆価格が回復し、農民の大豆栽培意欲が高まる可能性はあるものの、全体的に見て、2007年の大豆栽培面積は安定しつつも減少傾向にあると予測されている。

2 1～2月の大豆および大豆油輸入は引き続き増加、大豆粕輸入は減少

海関統計によると、1～2月の中国の大豆輸入量は、前年同期比28.5%増の360.9万トン、同じく輸出量は同15.5%増の4.6万トンとなった。大豆油の輸入量は同19.5%増の36.4万トン、輸出量は同14.1%減の1.1万トンとなった。また、大豆粕の輸出量は同1.9倍の13.4万トン、輸入量は同92.0%減の1.4万トンとなった。

### 3 世界の大豆生産量は需要を上回り、期末在庫は増加

2006/07年度における世界の大豆生産量は前年比5.3%増の2.29億トンで、米国、ブラジル、アルゼンチンなどの主産国は、いずれも生産量が増加すると予測されている。世界の大豆消費量は、同4.6%増の2.24億トンと見込まれ、生産量が需要量を上回っていることから、同年度の期末在庫は、同9.9%増の5,750万トンに達し、史上最高を記録するとみられている。2006/07年度における世界の大豆油生産量は同4.4%増の3,582万トン、消費量は同6.6%増の3,594万トンと予測されている。また、同じく世界の大豆粕生産量は同5.5%増の1.53億トン、消費量は同4.2%増の1.51億トンと予測されている。

### 4 第1四半期の国内外の大豆価格は上昇、国内の大豆油価格は下落

農産物需要の力強い需要に伴い、第1四半期の大豆、大豆油および大豆粕の国際価格は、総体として昨年第4四半期以降上昇傾向にある。米国シカゴ先物取引所における3月の先物価格指数は、3月21日までの時点で大豆が1トン当たり288.2ドル（前月比2.4%安、前年同月比34.3%高）、大豆粕が同251.5ドル（前月比4.8%安、前年同月比29.2%高）となった。輸入大豆価格高騰と国内の大豆油利潤増加の影響を受け、貿易商や企業の国内買い付けが積極的に行われたことから、第1四半期の国内生産地における大豆販売価格は大幅に上昇した。3月28日までの時点で、黒龍江省の搾油用大豆の販売価格は1トン当たり2,862円で、前四半期比4.8%高、前年同期比21.3%高となった。また、山東地区における4級大豆搾油工場の出荷価格は同6,835円で、前四半期比4.2%安、前年同期比35.6%高となった。

国産大豆価格の大幅上昇を受け、輸入大豆と国産大豆の価格差は縮小した。3月下旬における山東省の輸入大豆の通関渡し価格（Duty Paid：C I F＋関税等）は1トン当たり3,120円で、当地の国産大豆仕入価格に比べて1トン当たり70元前後高いものの、価格差は年初に比べ50%以上縮小した。